

# はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School

青森大学  
AOMORI UNIVERSITY



## 東北新幹線開業 15 周年 北海道は 3 月に 10 周年

東北新幹線は今年 12 月 4 日に全線開通・新青森開業 15 周年を迎えます。新青森-東京間 647.9km を直結し、文字通り東日本の大動脈として機能してきました。来年 3 月 26 日には、東北新幹線と一体化して運用されている北海道新幹線が開業 10 周年を迎えます。JR 東日本は JR 北海道、青森県庁、北海道庁と協力して青森県・函館観光キャンペーン「ひと旅 ふた旅、めぐる旅。」を展開、さまざまなイベントを開催して節目を祝います。



東北新幹線は 1982 年に盛岡まで開業しました。しかし、盛岡から北は 1973 年に建設の前提となる「整備路線」となった後、長く着工が先送りされ、2002 年 12 月 1 日に盛岡-八戸間が開業しました。そして 8 年後の 2010 年 12 月 4 日、全線開通・新青森開業を迎えました(写真右上)。



開業当時は「E2 系」という車両が「はやて」として最高速度 275km (盛岡以南) で運行し、東京-新青森間を最速 3 時間 20 分で結びました。翌 2011 年 3 月には、現行の車両「E5 系」が「はやぶさ」としてデビューし、最高速度が 300km までアップ、所要時間を 3 時間 10 分に縮めました。さらに、E5 系は 2013 年 3 月に 320km 運転を開始し、東京-新青森間が 2 時間 59 分まで短縮されて現在に至ります。

2016 年 3 月 26 日には北海道新幹線の新青森-新函館北斗間が開業、新幹線ネットワークが津軽海峡を渡りました。

この間、2011 年 3 月の東日本大震災、2020



年からの新型コロナウイルス感染症拡大などの大きな社会的危機を経て、東北新幹線は最も重要な公共交通機関の一つとして役割を果たしてきました。

10 月 18 日には、15 周年のイベントとして「新青森駅まつり」が開かれ、JR 盛岡支社のキャラクター「カンちゃん」披露、青森西高校書道部の作品展示や吹奏楽部のコンサートが行われ、新幹線や在来線の設備保守に関する PR コーナーなどが設けられました(写真左下)。

15 周年を迎える 12 月 4 日には、新青森駅で記念のセレモニーが開催され、13 時 29 分着の「はやぶさ 15 号」の乗客にはリンゴがプレゼントされる予定です。

記念のキャンペーンは 12 月 1 日から来年 3 月 31 日まで開催され、12 月 7 日には青森駅で、観光列車「ひなび」の出発に合わせてオープニング・セレモニーが行われます。



## 長万部高校を訪問、「しゃ弁」めぐり対話

### 青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥8

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」生徒たちが 10 月 31 日、北海道新幹線を通じて交流のある北海道長万部高校(長万部町)を訪れ、弁当の開発・販売や学校生活の在り方をめぐって意見交換しました。

長万部町には北海道新幹線の長万部駅が開設されます。また、青森西高校は北海道新幹線の起点である新青森駅の近くに立地しています。

長万部高校生は新しい長万部駅舎のデザインコンセプトの策定作業に携わり、その活動の一環として 2021 年、規模や役割が似た新青森駅を視察しました。その際、青森西高校とつながりが生まれ、2022 年・2023 年にも新青森駅を訪れて交流しました。2024 年には青西おもてなし隊が長万部高校を初めて訪問しました。

この日は顧問の成田由希、長嶺海教諭と 5 人の生徒が長万部町役場の岸上尚生・新幹線推進課長らの案内で長万部高校を訪れた後、鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局の岡本晋平・長万部建設事務所工事長らに、2038 年度の札幌延伸を目指す工事の説明を受けました。

長万部高校では、同校の生徒会役員 6 人と自己紹介し合った後、「校則の在り方」をめぐって対話し、登下校時や衣替え時期の服装をもっと自由にしてほしいという意見が双方から出ました。

給食をともに味わった後、午後は長万部高校の 3 年生が、地域の人々と協力してオリジナル弁当「しゃ弁」を開発、JR 北海道の特急ニセコ号などで販売した経験を紹介しました。青西おもてなし隊の生徒たちは、青森県の特産品であるリンゴやカシスとのコラボな

どをめぐり、盛んに質問していました。

終了後には、青森西高校生が作成した津軽塗のスプーンを、おもてなし隊の新谷好花隊長(2 年)が長万部高校の土屋靖雅校長に手渡しました。

長万部高校生徒会の 日下部樹里副会長(2 年)は「初めは緊張していたけど、青森西高の方々がフレンドリーに接してくれて、だんだんとほぐれ、楽しく交流会を行うことができよかった。今後も交流することがあったら楽しく仲良くできたら」と手応えを語りました。また、書記の佐藤漣太さん(1 年)は「青森西高校と交流でき、意見交換が楽しかった」、会計の宮下保心さん(同)は「青森の人の意見を聞いてよかった」と話していました。

2 年続けて訪問に参加した、青西おもてなし隊隊長の新谷好花さん(2 年)は「去年と違った学びがあった。新幹線工事が進み、1 年でこんなに変わるのか、と驚いた」、同じく 2 回目の宮本悠嗣さん(2 年)は「今後の自分の成長につながれば」と感想を口にしました。いずれも初参加の向後春慶さん(1 年)は「楽しかった。ぜひまた来たい」、本間倫さん(同)は「とても緊張していたが、優しい人ばかりだった」、小原彩瑛さん(2 年)は「この経験を今後に生かせれば」と振り返っていました。



### 三内丸山遺跡

# 重要文化財 新指定品を紹介

三内丸山遺跡で2026年3月8日(日)まで、令和7年度企画展「三内丸山遺跡の重要文化財～新指定品大集合!～」が開かれています。展示品のすべてを重要文化財で構成し、縄文時代の暮らしや人の眼差しを伝える貴重な出土品を紹介しています。

三内丸山遺跡の出土品は2003年、1,958点が重要文化財に指定され、2024年には1,855点が追加指定されました。今回の企画展は、これらの土器や石器、骨角器から、遺跡の価値と魅力を感じさせる137点を展示しています。うち128点が2024年の指定品です。

特に目を引くのは、両手足を広げたように見える人物画が描かれた、8cmほどの土器片(写真①)です。縄文時代後期には、狩猟の様子を表現したとみられる土器

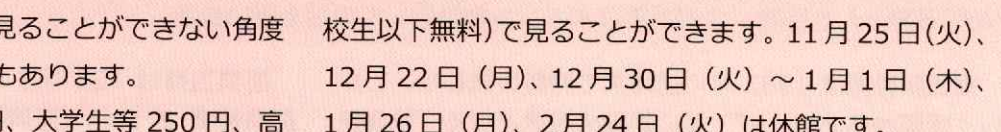
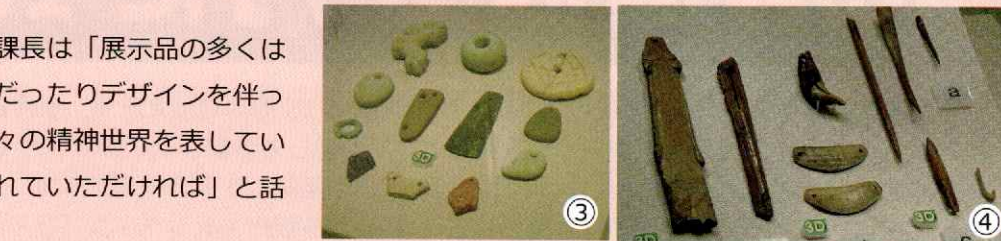
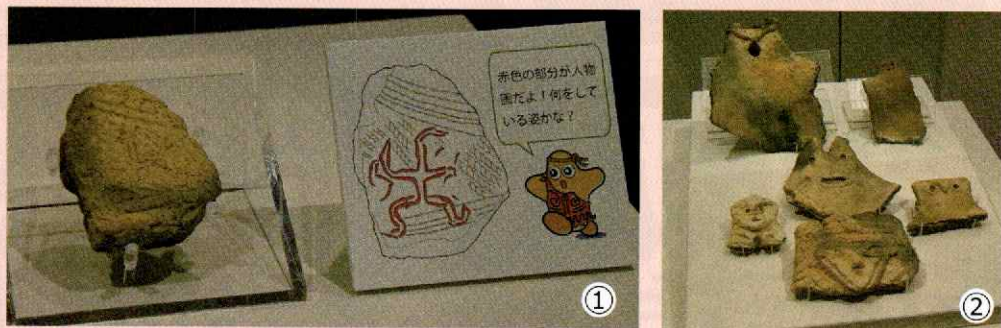
が作られますが、三内丸山遺跡の時代としては、絵画表現は極めて珍しい例といえます。その隣には、人の顔に見える造形を伴

う土器片が並んでいます(写真②)。また、遠く新潟県糸魚川から運ばれてきたヒスイの「大珠」をはじめとする石製品(写真③)や、動物の骨・角・牙でつくった銚頭や骨刀、針(写真④)は、縄文人の手業の確かさを感じさせます。

同センターの永嶋豊保保存活用課長は「展示品の多くは必ずしも実用的ではない出土品だったりデザインを伴っており、三内丸山に暮らした人々の精神世界を表していると考えられる。彼らの心に触れていただければ」と話しています。

3D データを活用し、普段は見るできない角度から出土品を観察するコーナーもあります。

常設展の観覧料(一般500円、大学生等250円、高



校生以下無料)で見ることができます。11月25日(火)、12月22日(月)、12月30日(火)～1月1日(木)、1月26日(月)、2月24日(火)は休館です。

### 青森県立美術館

## 「コスモスの咲くとき」

# 教育版画と平和の接点たどる

青森県立美術館で2026年4月12日(日)まで、「コスモスの咲くとき-地域に学び、平和を刻む教育版画のいま、」が開かれています。「戦後80年」の節目に、小中学校を舞台とした教育版画の制作が盛んだった青森県の流れを追いながら、今なお戦火の絶えない世界において、版画が果たし得る役割を問い掛けます。

本企画は同美術館の「コレクション展 2025-3」の一環として開かれ、教育版画における子どもたちの「他者と共に生きる実践」に着目しています。

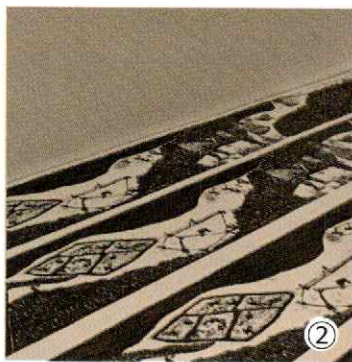
県内版画興隆の祖・今純三や、教育版画をけん引した大田耕土らの戦前・戦中の作品や、敗戦に伴い墨塗りされた教科書に始まり、五所川原市教育委員会が所蔵する1950～1990年代の県内の教育版画作品を軸として多彩な作品を展示しています。

宮崎駿監督の映画「魔女の宅急便」の劇中画のモデルとなった作品「天馬と牛と鳥が夜空をかけていく」(写真①)、車力村(現つがる市)の成り立ちや開

拓の様子を30mにわたり活写した版画絵巻「車力農業史」、戦争などへの抵抗アクションとし版画を手掛ける芸術家集団「A3BC」の活動紹介などがみものです。

車力農業史は、制作に携わった方々が半世紀余りを経て作品の刷り直しを行いました(写真②③)。企画を担当した奥脇嵩大芸員は「版画は時間を超えてつながる体験ができる存在」と話しています。

コレクション展 2025-3 はこのほか、ともに生誕90年を迎えた工藤哲巳、寺山修司らの作品を展示しています。観覧料は一般700円、大学生400円、18歳以下



および高校生は無料。年内の休館日は11月25日(火)、12月8日(月)、22日(月)、26日(金)～31日(水)。

★写真①: 八戸市・湊中学校養護学級生徒 / 指導: 坂本小九郎「3. 天馬と牛と鳥が夜空をかけていく」《虹の上を飛ぶ船・総集編(2)》(1976)五所川原市教育委員会蔵(青森県立美術館寄託作品)

### 県立郷土館 サテライト展 石!? あつめてみました

青森県立郷土館のサテライト展「石!? あつめてみました」が1月18日まで、青森県立美術館で開かれています。青森市に落ちてきた隕石、海の生き物の化石、県内各地の珍しい石、彫刻家・鈴木正治の石彫作品などを展示します。石のアート作品をつくるワークショップ、クリスマスイベントなども開催します。

入場無料。休館日はコレクション展と同じです。

**見学時間** 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)  
(6月1日～9月30日は18:00)

**休館日** 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

**観覧料** 一般:500円(400円) 大学生等:250円(200円)  
高校生以下:無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

**三内丸山遺跡センター**

**縄文 芸術** 徒歩約10分  
三内丸山遺跡センター ユニークな 青森県立美術館

**青森県立美術館**

**開館時間** 9:30～17:00(入場は16:30まで)

**休館日** 不定休(青森県立美術館HP参照)

**観覧料** 一般700円(560円) / 大学生400円(320円) / 18歳未満および高校生以下 無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料  
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約15分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約40分

**Facebook ページ Instagram アカウント**

<ネット情報>  
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。  
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ Instagram 青森大学社会連携センター